

2022年10月31日
(一部改訂)2024年09月30日

お得意先各位
お取引先各位

第一硝子株式会社
代表取締役社長 長谷川雅之

第一硝子における地球温暖化問題に向けて レポート①
～ 二酸化炭素排出量削減について ～

2022年2月に当社ホームページで発信した「第一硝子における地球温暖化問題に向けて」の続報としてこのレポート①にて、ご報告いたします。

前回発信した削減案は以下の通りです。

- ① 2019年度を基準年とした削減案を作る。
- ② 削減量の目標は、30%減とする。
- ③ 2022年度中に削減案を実行に移す。
- ④ 2027年度までの5年間で達成することとする。

当社の2019年度のCO₂排出量は41,000トンです。

削減計画では2025年度の溶融炉の更新時までにはできることと、更新時以降に実現できることとの二期に分けて実施内容を検討・実行してまいります。

第一期 2025年度の溶融炉の更新時までには実施すること

- ・オンライン会議の継続実施
- ・第一硝子本社建造物及び自社倉庫に太陽光発電の設置
- ・各建造物の通路、階段、トイレなどの照明や倉庫の照明の工夫
 人感センサーや水銀灯のLED置換・設備の増強
- ・クールビズ、ウォームビズの実施継続
- ・社内管理文書のデジタル化の更なる推進
 紙使用量の削減

- ・製品輸送の効率化
 - 納車単位の見直し 10トン車での満載納入
 - 鉄道コンテナの使用
- ・社有車のEV車へ移行
 - 営業車・構内作業用フォークリフトなど
- ・素地流し時の温度、流量管理
- ・製品生産スタート時の徐冷炉の昇温適正化
- ・二次検査作業の効率化
 - オフラインからオンラインへ
- ・工場生産関連ユーティリティの見直し
 - コンプレッサーエアーなど
- ・生産計画の適正化
 - 外注製品の管理統合
- ・溶融設備の効率的運用
 - アンバー製品の外注化・生産設備の停止
- ・加工設備の効率的運用
 - びんの表面処理の外注化
- ・既存設備でのグリーンエネルギーの使用検討・実施
 - メタネーション比率の検討・推進

第二期 2025年度の溶融炉の更新時以降に実現できること

- ・引き上げ容量の適正化
- ・生産ライン数の適正化
- ・燃焼方法の検討・実施
 - メタネーション以外のグリーンエネルギーの使用検討
- ・既存溶融炉の延命保守の検討

次回以降の追加対策等のレポートは、当社ホームページの「環境負荷」にて報告いたします。